

東京医療

発行人 理事長 入江 徹也 発行責任者 総務課長 玉津 聡史

東京都中野区中央四丁目59番16号 TEL 03-3382-1231(代) 補綴 03-3382-9991

新渡戸記念中野総合病院ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail: soumu@nakanosogo.or.jp

◆電子カルテ導入について



新渡戸記念中野総合病院並びに中野クリニックでは、本年12月1日より電子カルテシステムを導入いたします。これにより院内の情報共有や伝達がスムーズになり、業務効率の向上および診療の質の向上につながると考えております。

この電子カルテシステムの運用に伴う変更点は次のとおりです。ご不明な点は、職員までおたずね下さい。

①診療録が紙カルテから電子カルテ化され、効率的な診療につながります

②自動精算機を導入いたします

これまでは会計窓口でのみの精算方式でしたが、会計表示板によりお手持ちの受付番号をご確認頂き、自動精算機にてお支払い手続きへ流れる方式と併用になります。なお、入院の会計はこれまで通り、窓口でのみとなります。

③原則、再診予約制となります

原則、再診予約制へと順次移行していきます。予約外でもこれまでどおり診察は可能です。診察終了後、主治医が再診のご案内を致します。

導入に当たりまして、職員全員で十分な操作研修やリハーサルなどを行っております。しかしながら導入当初は、職員が不慣れな点や想定外のトラブルによって、診療時間や待ち時間が長くなることが予想されます。また、一部受診手順が変わるなど、何かとご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

◆内科専門医制度の基幹施設として

日本専門医機構より承認

さる10月5日、当院申請中の『新渡戸記念内科専門研修プログラム』が、日本専門医機構による二次審査（最終審査）で承認されました（認定番号：1117130033）。当院は内科専門医制度の基幹施設として独自のプログラムを申請し、日本内科学会による一次審査を「修正なし」で昨年同様通過していました。これは平成30年度より開始される新しい専門医制度（2年間の初期研修を終えた、卒後3年目以降の専攻医のための新制度）の基幹施設として、当院の診療レベルや若手専門医育成の研修環境が、日本内科学会と日本専門医機構のいずれからも公認されたことを意味しています。これからも診療の質をより高めつつ、地域医療に貢献して参ります。

（副院長兼内科部長 山根道雄）

◆インフルエンザワクチンの供給遅延について

今シーズン、インフルエンザワクチンの供給が遅れており、予防接種のご案内が出来ず、皆様にご迷惑をおかけしております。これは、ワクチンの製造過程で使用する株が変更となり、各メーカーの製造開始が遅れたことが原因となっています。また、厚生労働省は、今シーズンの供給量が昨シーズンの使用量を下回ることも通知しています。

当院では、現在必要分の確保に努め、供給が安定する11月の第3週には予防接種を開始できる見通しとなっていることをお知らせいたします。

◆平成29年度中野区区民健診を受診しましょう

中野区区民健診が始まっています。実施期間は、6月1日から来年の2月28日までです。新渡戸記念中野総合病院でも中野区区民健診を行なっております。ぜひ区民健診を受診して、日ごろの健康づくりに役立てましょう。

受診の際には、中野区発行の「受診券・受診券シール」を必ずお持ちください。

受診最終月になりますと大変混み合います。出来る限り早めの受診をお勧めいたします。

また、新渡戸記念中野総合病院では、乳がん検診（触診とマンモグラフィ検査）と、子宮頸がん検診も実施しています。こちらは予約検査となっています。

中野区から乳がん検診・子宮頸がん検診の受診券シールが届いている方は、電話または直接当院健康管理科1階5番窓口までお申し込みください。

1月、2月は直前の予約が取れない事もあります。

早めのご予約をお待ちしております。

なお、中野区の外、杉並区・練馬区・新宿区の区民健診も新渡戸中野総合病院では行なっております。各区によって受診期間や健診内容が異なりますので、詳しくは、区報や区役所にてお確かめくださいますようお願いいたします。

*中野区国民健康保険以外の健康保険組合・共済組合等にご加入の方は、それぞれの保険組合等にお問い合わせください。

区民健診について（内容・実施日・実施時間等）のお問い合わせは、下記までお願いいたします。



新渡戸記念中野総合病院 健康管理課

電話：03-3382-1231（代）

（内線295・296）

問い合わせ受付時間（日曜・祝日を除く）

平日9時00分～16時30分

土曜9時00分～12時00分

11月の小児救急体制



新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「**準夜間小児初期救急医療**」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さんが急病の際には、下記の**夜間受付電話**にご連絡のうえご来院ください。15歳以下のお子さんを対象に、小児科医が診療を行います。**※血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。**

11月1日から30日までの、準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせ願います。

11月準夜間小児初期救急担当医

受付時間：毎日午後**6時30分**～午後**9時45分**

診療時間：毎日午後**7時**～午後**10時**

夜間受付：03-3382-9991

日	月	火	水	木	金	土
			1 四宮 雅子	2 斉藤 直子	3 右田 王介	4 保崎 明
5 右田 王介	6 小須賀基通	7 高梨 栄	8 山田 正興	9 木村 将裕	10 清水 泰岳	11 亀井 宏一
12 亀井 宏一	13 小須賀基通	14 齋藤 哲也	15 多田 光	16 斉藤 直子	17 右田 王介	18 清水 泰岳
19 清水 泰岳	20 小須賀基通	21 高田 功二	22 久利 由美	23 右田 王介	24 清水 泰岳	25 清水 泰岳
26 亀井 宏一	27 小須賀基通	28 細谷 直人	29 宮地 敦子	30 斉藤 直子		

新渡戸記念中野総合病院業務概況（平成29年9月）

	延患者数		手術件数		入院主要手術
	入院	外来	入院	外来	
内科	1,806	3,623	17	10	経皮的シャント拡張術・血栓除去術,静脈形成術,吻合術,肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
精神神経科		804			
神経内科	1,404	1,033	2		経皮的肝腫瘍ドレーナージ術,気管切開術
小児科		202			
外科	1,406	1,366	98	43	腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術),腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術,胃全摘術(悪性腫瘍手術)
整形外科	1,260	2,651	64	35	人工関節置換術,関節鏡下靭帯断裂形成手術,関節鏡下肩関節唇形成術
脳神経外科	285	364		10	
皮膚科		917		5	
泌尿器科	81	610	3		経尿道的前立腺手術,膀胱結石摘出術(経尿道的手術),経尿道的尿管ステント留置術
婦人科	24	442	7	2	子宮全摘術,子宮付属器腫瘍摘出術,子宮頸部(腔部)切除術
眼科	32	693	11	8	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法),水晶体再建術
耳鼻咽喉科	124	759	2	13	耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺浅葉摘出術),鼓膜(排液・換気)チューブ挿入術
放射線科		12			
合計	6,422	13,476	204	126	

◆新渡戸稲造博士の終焉の地を訪ねて（その①）

執筆者：東京医療生活協同組合 理事長 入江 徹也



ロイヤルジュビリー病院

ビクトリアはカナダ西海岸、ブリティッシュコロンビア州の南西部に位置するバンクーバー島の南端部にある同州の州都で、市街地人口75,000人(広域人口30万人)程の町です。気候が穏やかで、とても住みやすく、引退後に住みたい町としても知られています。1933年(昭和8年)10月15日、新渡戸稲造博士(当院の創立者、東京医療利用組合初代組合長)は、ビクトリアのロイヤルジュビリー病院(Royal Jubilee Hospital: RJH)で71歳の生涯を閉じました。当時の日本は、満州事変(1931年)や国際連盟脱退(1933年)によって世界中から孤立していましたが、この厳しい状況の中で日本を理解してもらうために、新渡戸博士は1933年8月、カナダのバンフで開かれた第5回太平洋問題調査会(IPR)に日本代表団団長として出席したのです。開

会式の晩餐会で博士は人生で最後の公式演説を行いました。

『世界の人々の親密な触れ合いにより、いつの日か、ゆっくりとではあっても、激情ではなく理性が、自己の利益ではなくて正義が、全世界の民族と国家のための仲裁人となる日が来ることを希望するのは、過ぎたる望みというものであろうか』と語り、聴衆の心に強く訴えかけました。新渡戸博士は太平洋会議での大役を立派に果たした後、メリー夫人が待つビクトリアを訪れ、9月1日夫人と二人で彼の71歳の誕生日を祝いました。しかし、その後の9月12日、新渡戸博士は激しい腹痛のために意識を失い、翌9月13日にロイヤルジュビリー病院に入院しました。急性出血性膵炎でした。あらゆる治療の甲斐なく、新渡戸博士は10月15日永眠されました。厳しい国際情勢の中であくまでも平和を求めながら、道半ばで病に倒れた新渡戸博士の思いは、いかばかりであったのでしょうか。(続く)



新渡戸稲造博士 胸像



参考文献

佐藤全弘・藤井茂『新渡戸稲造事典』教文館
柴崎由紀『新渡戸稲造ものがたり』銀の鈴社